

令和3年度モニタリング評価実施による改善のための対応方針

施設名：江之子島文化芸術創造センター

評価項目	評価基準	評価委員の指摘・提言等	改善のための対応方針	次年度以降の事業計画等への反映内容
<p>I (1) 施設の設置目的及び管理運営方針</p>	<p>■センターが提示した施設の運営方針や活動方針に則り、enocoの存在感を高め、より多様で多くの人々に活用いただけるような施設の運営がなされているか。</p> <p>■enocoならではの場作りと運用に努め、主体的な創造活動と交流の機会を提供し、場の活性化がなされているか。</p> <p>■今年度の重点方針「現代美術の振興（府所蔵作品の活用）」「協働の拠点づくり」の三本柱（“ネットワーク”“教育”“プラットフォーム”）の連携に基づき、事業を展開させ、最終年度の総まとめとして、府民が文化芸術を享受し、日常的に創造的活動が行える社会基盤（文化的コモンズ）としてのenocoを形成するとともに、更なる認知度向上、貸館利用率の向上を含む場の活性化に取り組み、誰もがenocoの空間や資源、ネットワークを活用し、多様な創造活動を展開できる拠点となる活動を実施しているか。</p> <p>■第2期（平成29年度からの5年間）の指定管理者期間満了年度に相応しい、次の10年、20年に向けて、新たな取り組みや挑戦が生み出される基盤づくりを行い、府内の文化活動の活性化を図るとともに、enocoが新たな文化芸術を生み出す拠点となることを目指した活動を実施しているか。</p> <p>【目標値】※（）内は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた場合の目標値 ◇来館者数延べ：97,000人（60,000人） ◇文化芸術に関する活動を行った個人・団体等の延べ数：680件（440件） ◇enocoと創造的活動を協働した個人・団体等の数：180件（90件）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・芸術の団体や若手アーティストたちへの支援が、取組みとして具体的になり厚くなったと感じている。次期指定管理者にも取組みを引継いでほしい。 ・指定管理者が、築いたネットワークは素晴らしいと思う。次期指定管理者にもネットワークづくりを頑張ってもらいたい。 ・目標値に関して、もし次年度新型コロナが収束した場合に、実績の数値にあまり変化がないということになると、新型コロナに影響されているのではなく、参加者や関係者の属性が固定されている可能性があるため、実情に合う形で次年度の目標値設定を検討してほしい。 ・これまでのenocoを引継ぐということではなく、文化課と次期指定管理者とで、新たなenocoの運営について考えてほしい。 ・格差が開いてきた世の中では、社会教育施設の役割が、豊かな国を代表する芸術文化の専門施設ではなく、もう少し今の社会状況に見合った施設のあり方がある。 ・利用者のウェルビーイング(※)、指定管理者（運営する側）のウェルビーイング、施設設置主体者のウェルビーイングを考えながら、これからの運営を行ってほしい。（※ウェルビーイング:well-being 直訳すると「幸福」「健康」。心身と社会的に良好である状態であり、よりよく生きる。という意味で使われる）。 	<ul style="list-style-type: none"> ・センター開館から10年間の実績と今後の課題を踏まえ、enocoの方向性を明確にするとともに、目標や指標は、enocoの方向性や状況を踏まえ設定する。 ・新たな施設の魅力創出を目指し、指定管理者のアイデアが最大限活かされるよう指定管理者に要請する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度の運営目標として、「現代美術の振興」、「交流・活動・協働機会の創出」、「次世代への継承・発展」の3つを掲げるとともに、新型コロナウイルスの影響や社会情勢の変化を踏まえ、目標の設定や見直しを行っていく。 ・文化芸術を享受する基盤を拡大し、あらゆる人々が文化を通じて、いきいきと活動できる都市を目指し、センターを文化芸術拠点として機能強化を図っていく。

<p>I (3) 利用者の増加を図るための具体的手法・効果</p> <p>I (4) サービスの向上を図るための具体的手法・効果</p>	<p>①協働の拠点づくりに関する業務</p> <p>ア 文化関係機関とのネットワークの構築と文化情報の収集・提供</p> <p>■ネットワークの拡大に努めるとともに、形成されたネットワークを大阪に根付かせるための在り方を検討しているか。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症禍（以下、コロナ禍）における文化芸術活動の在り方や事業推進方法等について情報を収集し、状況に応じて対応するとともに、情報発信を行っているか。</p> <p>イ 創造的な活動機会の創出等の支援</p> <p>■昨年度から2か年計画の「ぞくぞく・enocoの学校」を実施することで、enocoや地域へと自ら活動を展開することができる人材を育成できているか。</p> <p>■「こどもアート学科」では、子どもに多様な素材・表現・思考に触れる機会を提供できるメニューを実施しているか。</p> <p>ウ 相談窓口の設置</p> <p>■enocoで蓄積してきたノウハウやネットワークを府内の市町村や文化芸術関係者が活用できるよう、窓口の体制を強化するとともに、相談窓口事業の普及に努めているか。</p> <p>③美術コレクションの管理・活用に関する業務</p> <p>■美術コレクションの館内外における展示や貸出し等、積極的な活用を行っているか。</p> <p>■enocoのエントランスや展示室等で年間を通して、作品を展示し、定期的に展示替えを行い、多彩なコレクションの周知、新たな手法なども取入れ、例えばこれまで展示されていなかった作品の展示・公開など、府民がより多くの美術作品に触れる機会を創出しているか。</p> <p>■「enocoコレクション・キャラバン」の成果をまとめたハンドブック（PDFデータ等）を作成する。また、鑑賞教育の在り方検討等、今後、教育現場や文</p>	<p>・子どもたちが自分でアート活動に参加し、来館していることは、とても大事なこと。家庭の環境や経済的な状況に関係なく芸術に触れ合えるというのは、とても素晴らしいことであり、重要なこと。その点が根付いたのは非常に良いことであり、次期指定管理者にも、ぜひ引継いでもらいたい。</p> <p>・府民や、そこに暮らす人々に向き合いながら、様々なことを発信し続けなければならない立場の者には、次のミッションがあると思うので、これからも考え続けていってほしい。</p> <p>・これからは、体験の質感が以前とは全く違うものを求める人たちが増えるのではないかと、意識して運営を行ってほしい。</p>	<p>・引き続き子どもたちを対象としたワークショップや講座等を積極的に展開し、文化芸術活動を担う次世代の育成を行うよう指定管理者に要請する。</p> <p>・コロナ禍や、社会情勢の変化等を捉えながら、府民がより利用しやすく、親しみやすいセンター運営となるよう指定管理者に要請する。</p>	<p>・子どもたちを対象としたワークショップや、若手アーティスト等と連携した事業を行うなど、次世代への継承・発展につながる取り組みを行っていく。</p> <p>・府民をはじめ、文化芸術に関係する様々な人々や団体の交流・活動・協働の拠点としての機能を発揮できるような施設運営を目指す。</p>
--	--	---	--	---

	<p>化施設等で活用してもらうことを見据えた活動が できているか。</p> <p>■収蔵作品を適切に管理しているか。</p> <p>【目標値】 ◇作品活用点数：1,000点 ◇企画展：2回／年 ◇enoco 館内での定期的な展示</p> <p>⑤地域住民や江之子島まちづくり事業との連携・協働 に関する業務</p> <p>■地域の社会活動等を連携・協働で進める体制の運営 に努め、地域住民が集い、活動できる機会を創出して いるか。</p>			
(5) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	<p>■センターの維持管理、安全管理、改修等が適格、迅速に実施されているか。</p> <p>■防災・安全対策等、危機管理体制が確立されているか。</p> <p>■新型コロナウイルス感染症拡大防止策として、適切な対応が行われているか。</p>	<p>・事業内容に重きが置かれ活動が充実し、来館者が増加するということは、より一層安全性の確保が必要になる。指定管理者の交代時期であることから、安全を図るためのマニュアルや、避難訓練、所蔵作品の展示等に当たっての防犯対策等の面についても、より一層の検討が必要。</p>	<p>・災害や緊急事案に備え、マニュアル等を整備するとともに、適宜訓練等を行うこと等で施設利用者の安全が確保できるよう指定管理者に要請する。</p> <p>・作品の展示等に際しては、作品保護についても考慮し、展示を行うよう指定管理者に要請する。</p>	<p>・危機管理マニュアルの作成をはじめ、防災安全対策などの危機管理体制の確立に取り組む。</p> <p>・所蔵作品を適正に管理していく。</p>
II (2) その他創意工夫	<p>■enoco のファンづくりに努めているか。</p> <p>■その他サービス向上に繋がる取組み、創意工夫（定性的な評価も含める）に努めているか。</p>	<p>・子どもたちの自主的な広報活動や、ポッセとして若い世代がセンターの事業に参加している点について、定性的な評価が出来るのではないか。</p>	<p>・子どもたちや学生等が、センターの事業に関わることができる内容の事業実施を指定管理者に要請する。</p> <p>・評価において、数値に表れない定性的な部分も評価の対象とする。</p>	<p>・子どもたちを対象としたワークショップや、大学等と連携した事業を行うなど、次世代への継承・発展につながる取組みを行っていく。</p> <p>・引き続き、定量評価のみならず、目標や評価項目によって、定性評価も取り入れていく。</p>

Ⅲ（３）安定的な運営が可能となる財政的基盤	■ 共同事業体の経営状況、経営規模、健全な財務状況等が確認できるか。（財務諸表により確認）	・提供のあった財務諸表等から、運営上の問題は発見できない。		
-----------------------	---	-------------------------------	--	--

※評価委員からのコメントがあった項目だけを抜粋して記載